
京 機 会 ニ ュ ー ス

No. 3 平成10(1998)年 9月1日

京 都 大 学 機 械 系 工 学 会

事務局: 〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学大学院工学研究科機械系工学専攻
Tel. 075-753-5183, Fax. 075-771-7286, E-mail: dan@mech.kyoto-u.ac.jp



平成10年度京機会春季総会の一コマ / 講義も最近ではこんなようすで

<<会告>>

京機会会長挨拶 2頁

京都大学機械系工学関連教室
第二世紀事業について 2

平成10年度京機会秋季大会開催のご案内 3

平成10年度京機会春季総会
および第1回評議員会の報告 4

京機会会費納入状況のご報告
および会費の用途について 5

京機九日会の午餐会参加受付 6

<<同窓会会合開催のお知らせ>>

秋季京機22年同期会 6

50周年記念京機23年会ご案内 6

昭和33年卒業京岬会卒業40周年同期会 7

昭和31年入学/昭和35年卒業生同窓会 7

<<同窓会会合の記録>>

卒業55周年記念九月会
-昭和17年9月卒業生クラス会- 7頁

50年会(京機S25年卒クラス会)報告 7

洛悠会(S27卒業者級会)の歩み 7

昭和43年卒同窓会 8

昭和44年卒同窓会 8

S45卒同期会便り 8

四半世紀ぶりの「同窓会」 8

機械自主研同窓会便り 8

<<会員からのお便り>>

蒸気機関車模型の来歴 9

<<教室から>>

教官の異動 9

編集後記 10

挨拶

京機会会長 嶋本 謙

創立百周年を記念して、昨年新会則による京機会が再出発した折りに副会長に指名されましたが、今回、大矢根守哉前会長の後を受けて会長に推薦され、責任の重さを痛感しております。

改めて新会則を読み、会則変更の経緯を思い返してみますと、再出発は、教室の現職教官主導型から会員参加型への変更によって、京機会の発展的変換をはかり、かつ会費制導入によって活動の基盤を強固にしようとするにありましたと思います。

このように考える理由は、会則には明記されておられません。副会長、幹事、評議員など役員に学外者の参加を求めたこと、新たに京機会ニュースを発行し、さらに、特別委員会や支部を設置できることを明文化したことからの推定です。

会員皆様のご意向を伺いながらの教室の諸先生のご努力により、変化は起こりつつあると思います。現在

は、京機会ニュース、ホームページの充実に努力し、支部創設、その他の模索が始まった状態と思います。私個人は、同窓会は教室主導のもとに、会員がその活動を支援するのが本来の姿に思えてなりません。機械系工学教室の同窓会である京機会の運営が、新会則のもとで、どのように定着していくかは重大な問題であり、じっくり役員会で検討し、この一年の内に、運営の方針が安定化するよう微力ながら努力したいと考えております。

本会が会員の知的交流と親睦を図るための活動が盛んになること願って止みません。親睦のみならず、技術的な面での交流の場に京機会が活用されるように、会員の皆様には、ご提案、ご意見を出していただいて、会員のニーズに沿った新しい京機会作りに参加して下さることをお願いいたします。

京都大学機械系工学関連教室第二世紀事業について

京都大学機械系工学関連教室第二世紀記念事業会
実行委員会委員長 駒井 謙 治 郎

平素は京都大学工学研究科機械系工学関連教室の発展のために、何かと御支援を賜り、厚く御礼申し上げます。ご承知のように、母体の機械工学科は明治30年(1897年)に土木工学科と並んで京都大学の最初の学科として設立され、平成9年にめでたく機械系工学教室は創立百周年を迎えました。この間、昭和35年に精密工学科、昭和37年に機械工学第二学科が開設され、さらに、機械工学第二学科は昭和50年に物理工学科に改組されました。さらに、平成6年度の大学院重点化改組によって、学部は物理工学科としてその中心となり、大学院は機械工学専攻、機械物理工学専攻、精密工学専攻、ならびにエネルギー応用工学専攻の諸教室に発展致しました。引き続いての改組・拡充により、機械系工学教室に関連してエネルギー科学研究科にエネルギー変換科学専攻、情報学研究科システム科学専攻に人間機械共生系講座が発足いたしました。現在では、これらの機械系工学関連教室のほかにも工学研究科附属メゾ材料研究センター、再生医科学研究所、エネルギー理工学研究所、原子炉実験所にスタッフを擁し、総合的かつ複合的な教育・研究組織を構成しております。これら機械系工学関連教室では、これまでに

6500余名にのぼる学部卒業生と2200名に及ぶ修士課程修了者、150名を越す博士課程修了者を送り出して広く産業界に寄与いたしますとともに、学術的にも国内・国外の機械工学の分野での研究活動をリードする教室たるべく不断の努力を続けて参りました。

工業の中心としての機械工学は一層の重要性を増しており、そのためには、当機械系工学関連教室が、創立百周年を経て、来るべき第二世紀に向かっての先進的な工業技術を支える基礎研究の場として、そして、独創的な学理や技術を自ら創り出すことのできる有為な人材を育成する教育の拠点として、十分に機能できるようにすることが大切であると考えます。21世紀を目前に控え、社会構造そのものが一大変革期を経験しつつあり、社会の一員である大学も大きな試練の時期を迎えております。私どもは今後とも、当機械系工学関連教室が、我が国の機械工学分野における中核拠点として活動し、また、諸外国の大学との競争の場の中で、若者に魅力ある教育の場を提供し、社会や海外に開かれた大学院大学の機能を果たすことができるようにするため、教室が創立百周年を迎え第二世紀に入る機会を捕らえて、機械系工学関連教室第二世紀事業を

行うことと致しました。この事業の柱は、世界基準の人材育成と、社会と機械系工学関連教室との連携強化による産学間の交流促進にあり、いずれも、社会に対する国立大学の貢献責任に応えうるものと考えております。事業の内容は、

1. 大学院博士後期課程在学生の世界基準達成とその自立支援のための奨学金の支給、
2. 産業界と機械系工学関連教室の交流促進（産学協同研究に関する教室情報の公開、社会人のリカレント教育の充実、インターンシップ等学生の実学経験の経

費の一部負担等）、

3. 記念式典の挙行（平成12年7月14日（金））と記念誌の発刊、
- 等を考えております。つきましては、この事業に対しての御理解をお願いするとともに、ご支援、ご援助を賜りたく、格別のご配慮をお願い致します。

駒井謙治郎

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

京都大学工学研究科機械工学教室

Tel. 075-753-5210, Fax. 075-753-5785

平成10年度京機会秋季大会開催のご案内

本大会を下記により開催いたしますので、ご出席下さいますようご案内申し上げます。

- 日 時 平成10年10月23日（金） 13:30 より
会 場 大阪ガス（株） 泉北製造所
（〒592-0001 大阪府高石市高砂3丁目1番地 Tel. 0722-68-0181）
集合場所 南海本線「石津川」駅 改札出口前（「難波駅」より各駅停車で約25分）
送迎バスにて見学先までご案内します。
集合時刻 12:30（バス発車時刻 12:40）
昼食は予めお済ませ下さい。

秋季大会（13:30～16:40） 於：ガス科学館 大ホール

1. 挨拶及び大阪ガス会社概要説明 常務取締役 松村雄次 氏
2. 工場見学 泉北製造所、ガス科学館
3. 技術講演会
 - (1) 天然ガスの安定供給を目指したLNG輸送・貯蔵の効率化
エソニアリング部 白井政雄（昭和53卒）
 - (2) 大地震を教訓とした地震防災システムの高度化・信頼性向上
設備技術部 三津田恒夫（昭和46卒）
 - (3) 省エネルギー化、人間・環境共生をめざした環境調和型住宅への取り組み
商品開発部 橋永雅夫（昭和50卒）
4. 閉会
その後、バスで懇親会場へお送りします（南海本線「堺」駅行きも用意致します）。

懇親会（18:00～19:30）

会 場 メルパルク大阪（JR「新大阪」駅より徒歩8分）

（〒532-0003 大阪市淀川区宮原4-2-1 Tel. 06-350-2111）

会 費 8,000円（懇親会出席者のみ当日大会会場でお支払い下さい）

そ の 他 懇親会終了後は現地解散とさせていただきます。

準備の都合上 9月28日（月）までに同封のはがきにて出欠のご返事をお願いします。

平成10年度京機会春季総会および第1回評議員会の報告

平成10年5月29日13時30分から京都大学工学部物理系校舎において、平成10年度京機会春季総会が開催された。会員89名、学生27名の参加があった。また、総会に先立って同日12時30分から第1回評議員会が開催された。

総会議事

矢部常任幹事(S35)司会のもとに議事が進められた。
・塩路常任幹事(S50)から会計報告があった。また、空席であった監事を植木 努氏(H元)にお願いした旨の報告があった。ついで、池上監事(S33)・植木監事(H元)から監査報告があった。とくに植木監事は、会計士の立場から、収入割れを起こしている本会の現状を厳しく指摘し、今後も責任を持って監査に当たると発言された。

・役員改選の件。平成9年度総会で選出された大矢根会長(S21)が体調を崩され辞任したい旨の申し出があり、嶋本副会長(S29)を会長に推薦するとの提案があり満場一致で承認された。西八條副会長(S20)と小澤副会長(S33)には留任願う。その他の役員は会長の指名により任命される。

・松久常任幹事(S45)から、当日開催された評議員会(学年別幹事会)の報告(p.5参照)があった。

・駒井機械系工学教室第二世紀委員会委員長(S38)から、次の報告があった(p.2参照): 5月29日に名誉教授の先生方と懇談を行った。8月に東京と大阪で京機会会員に対する説明会を行い、事業会を正式に発足させる予定である。博士後期課程の奨学金制度の充実、産業界と大学の連携、記念誌の発刊、などの事業を検討している。平成12(2000)年に記念式典を挙げる。

・嶋本会長から、「京機会は経営の問題、教官の多忙とサポートするスタッフの問題、財政上の破綻、若年会員の参加の減少、など運営上困難な問題を抱えている。大矢根前会長が就任の挨拶で述べられた全員参加型の同窓会、そのための支部設立、若い人が参加できる運営について継承して努力したい。教室があつての同窓会であり、そういう形でお手伝いしたい」と挨拶があり、また、「どのような形であれば若い人が参加できるか、各所で技術交流等の会合が開催された時、教室から積極的に参加すべきである」と教室に対する注文があった。

講演会

[講演1] 製品の開発と研究(企業と大学の立場から)
東京大学工学系研究科
精密機械工学専攻
鯉淵興二 教授(S36)

日立製作所に勤務しておられた時に開発上のトラブルの解決に当たられ、また、自動車機器事業部副本部長として佐和工場の副工場長時代に体験された事を基に、トラブルのない製品開発を行うにはどのようにすべきかを話された。また、現在東京大学で試みつつある改組、自己評価の方法、研究分野の活用と拡大、などについて述べられた。

[講演2] 機能材料の力学
京都大学エネルギー科学研究科
エネルギー変換科学専攻
松本英治 教授(S46)

材料力学と連続体力学との関係、 piezofilm によるひずみの測定、磁歪材料を用いるアクチュエーターと制振、形状記憶合金を使ったアクチュエーター、傾斜材料を用いる音響フレネルレンズによる材料欠陥測定に関する動画シミュレーション、などについて研究の紹介があった。

[講演3] 分子加工・分子機械
京都大学工学研究科
機械工学専攻
鷲津正夫 教授(S51)

細胞やDNAを扱うための道具としてのマイクロアクチュエーター、マイクロマシンを研究対象としているとの前置きを基に、個々の分子をとり扱う研究について報告された。螺旋状のDNAを任意の位置で切るためのテクニックなどをビデオを使って説明された。一昔前には機械屋には無縁であると思われた遺伝子を切ったり繋いだりの世界がいまやわれわれの領域の仕事になりつつある。

評 議 員 会

平成9年度総会において京機会会則が改正され評議員(学年別幹事)が役員として位置づけられた。評議員が選出され、第1回の評議員会が5月29日に開催された。評議員会で議論された内容は次の通りである。

現状の説明と問題点(松久常任幹事)：

- ・ 京機会の停滞：京機会は毎年春と秋に総会と大会を各1回開催しているが、参加者が少なく、とくに若い会員の参加が少ない。

- ・ 運営：従来教官だけで運営をしてきたが、学外の会員の参加が必要である。

- ・ 経理：京機会は、これまで新入会員が払う入会金3,000円(年約30万円)で運営されていた。しかし、これでは卒業生が6,000人を越えた現在、年2回の大会の案内の送付もまかなえない。

- ・ 組織・事務：京機会の組織が確立していなかった。会長もなかった。教官が会の事務を行っていたが、会員名簿の管理などは公務の片手間にできる仕事ではない。専従者を置く事務局が必要である。

京機会の組織を整備し、事務専従者を置く、年会費制を導入する、学年別代表の評議員を置く、などの会則の改正を行ったとの説明があった。

現在、京機会では、年2回ニュースを発行し、ホームページ

(<http://mech-server.mech.kyoto-u.ac.jp/kikai/>)

を設けている。

議論：

- ・ 3,000円の年会費をどのくらいの人が払うのか。土木系教室(京土会)では7割、電気系教室(洛友会)では2割ぐらいが払っている。機械系教室(京機会)では振込用紙発送以来3週間で1割の会員から振り込まれている(p.6参照)。

- ・ 会費の徴収方法として、自動振り込み、企業単位、学年別同窓会などでの徴収、永代会費制、複数年の一括払いなどの工夫があってもよい。

- ・ 会員名簿：名簿の管理にはかなりの労力・費用がかかる。会費納入者には名簿を支給することも考えられる。平成9年には名簿を8,000円で販売した。その売上げは本会の財政を救済した。名簿は3年ごとに発行してきた。

- ・ 会員名簿の更新にあたっては、学年別同窓会、研究室単位の名簿も活用すべきである。京都大学卒業生名簿は3年ほど前に廃刊になった。現在では教室単位

の名簿しかない。

- ・ E-mailを利用すべきである。

- ・ 学年別同窓会がある学年は半数くらいである。同窓会がない学年も多い。55歳位以上の学年は同窓会をよく開催し、出席率も高い。それより若い世代の学年では、出席率は1,2割である。

- ・ 同窓会会合の案内には年2回発行の京機会ニュースをご利用いただける。

- ・ 関西地区の京機九日会が、昔の毎月開催から、次第に縮小して年1回開催になった。

評議員へのお願い：

評議員には、学年別同窓会の開催の呼びかけ、会員名簿の更新、会費納入の依頼、などをお願いする。

今後の課題：

以上の他にも、京機会が同窓会として機能するために解決しなければならない多くの課題がある：

- ・ 京機会の大会プログラムをどのようにするか。講演が高齢者や若い人にとって魅力的か。大会は金曜日開催されてきたが、休日に開くのはいかがか。

- ・ 地区別支部の設立

- ・ 現在の幹事会構成員はすべて教官である。学外者に入ってもらい必要がある。

評議員のみならず会員諸氏からも忌憚のないご意見をお待ちします。

平成10年度京機会役員

総会で選出・承認された正副会長および会長指名の京機会役員は次の通り(敬称略)：

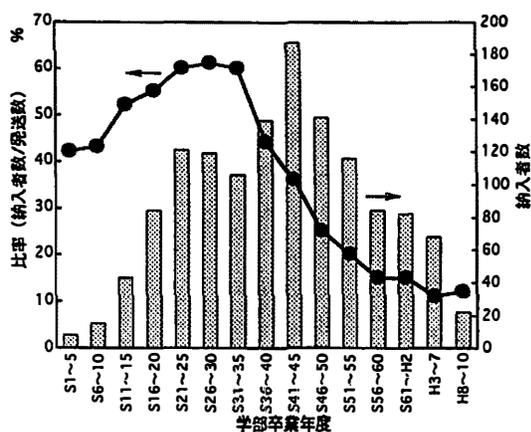
会長	嶋本 讓 (滋賀県立大学教授、 京都大学名誉教授、	S 29)
副会長	西八條 實 ((株)島津製作所会長、	S 21)
同	小澤三敏 (住友重機械工業(株)社長、	S 33)
監事	池上 詢 (京都大学教授、	S 33)
同	植木 努 (コーワ総合会計事務所代表、	H元)

幹事	学外の方にも委嘱の予定
評議員	ニュースNo. 2に掲載分から多少の変更あり (現在 依頼・調整中です。矢部常任幹事にご照会下さい。)

事務局	段 智子 (連絡先：p.10)	
	松木健次 (シャープ(株)顧問、	S 35)

京機会会費納入状況のご報告 および会費の用途について

昨年度の会則改正に伴って会費制が導入され、会員の皆様に年会費3千円の納入をお願い致しました。前回の京機会ニュースNo. 2に同封して振込用紙を4740名の方に発送し、8月20日までにそのうちの3割弱にあたる1335名の方に納入いただきました。下図は年代別内訳を5年区切りにまとめた結果で、納入者数(棒グラフ)と発送数に対する比率(折線グラフ)を重ねて示します。納入者比率は昭和39年卒から減少し、昭和46年以降は3割以下となっています。



会費は、主に名簿の管理と発行に充てることとなりますが、そのほか名簿データベースの確認を兼ねた総会・秋季大会の案内状送付や年2回の京機会ニュー

スの発行に使い、さらに学年別同窓会や支部活動の支援にも役立てていきたいと存じます。また、学外卒業生の方にも幹事会にご参加いただきお知恵を拝借するなど、「全員参加型の京機会」を目指し出来る限り有効な会費の用途について、今後とも検討する必要があります。皆様方からのご意見をお待ち致します。

会費納入者へは名簿代金割引などの優遇措置を考えております。とくに、今後の京機会活動を担う比較的若い卒業生の方についても、会費納入をよろしくご願ひ申し上げます。

京機会常任幹事(会計担当)

京機九日会の午餐会参加受付

京機九日会の午餐会は、1年に3回程度、大阪の梅田付近で開催されます。参加者は、人生、仕事、趣味などに関する卓話・懇談を楽しんでいます。詳しくは京機会ニュースNo. 2をご参照下さい。

この午餐会に参加するには登録が必要です。登録は1年ごとに更新します。登録期間中は毎回出席することを原則とします。

登録をご希望の方は10月末日までにハガキで今期の世話役(下記)までお申し出下さい。

大矢根守哉

《同窓会会合開催のお知らせ》

秋季京機22年同期会お知らせ

期日 9月29日(火) 12時~16時
場所 大阪クラブ(大阪市淀屋橋)
卓話 大原氏

昨秋卒業50周年記念会を期に、同期会誌を発行する事を決定し原稿募集中です。

期日10月末、内容、字数等自由

評議員 岸本雅夫

50周年記念京機23年会ご案内

本年1月にアンケートをお願いし下記のとおりに決まりました。多くの人のご出席をお待ちしております。

- 開催日 11月20日(金)
- 場所 京都センチュリーホテル
(京都駅より歩いて3分)
- スケジュール

11時	受付開始
12時より15時迄	宴会
15時40分より17時迄	機械教室見学
17時10分	現地解散

4. 先生2名で招待の予定

5. 費用概算 15,000円～17,000円

アンケートで欠席又は未回答の方で御出席される方は山田又は高橋迄電話連絡下さい。

御出席又は未定の御回答の方には10月下旬に出席の可否を確認致します。

昭和33年卒業 京岬会卒業40周年記念同期会

大きな節目である卒業40周年を記念して下記の同期会を企画致しましたので、ご案内申し上げます。

幹事

記

1. 同期会 10月3日(土)

13:30～16:30 京大機械工学教室(8階建の物理系校舎)2階 214室に集合。現況説明, 見学後 茶話会, 会費千円

17:30～19:30 懇親会 京都センチュリーホテル(京都駅北側東隣, Tel. 075-351-0111), 会費1万円
連絡先 岸本秀弘(豊田工大)

2. ゴルフ 10月2日(金)

10:06 スタート 3組 鳴尾ゴルフ倶楽部(開場1920年の名門) 〒666-0155 兵庫県川西市西畦野字金ヶ谷1-4, Tel. 0727-94-1011, 会費 約6千円, ゴルフに関する問い合わせは 蛭川 昌 へ

昭和31年入学/昭和35年卒業生同窓会

前回の同窓会以来3年ぶりの旧友との再会はもちろん, 今回は特に, 今春開通した明石海峡大橋, 震災後3年半を経た神戸の復興状況を見ていただくべく, 下記の企画をいたしました。多数ご参加ください。

日時: 平成10年10月3日(土) 18:30～20:30

会場: チサンホテル神戸

(JR神戸/高速神戸駅近く)

翌日のオプション(別会費): 観光バス旅行(明石海峡大橋-震災記念公園(野島断層)-大鳴門橋-人形浄瑠璃見学)/ ゴルフ/ 神戸自由散策
詳細のお問い合わせは, 松木健次 まで。

〈同窓会会合の記録〉

卒業55周年記念九月会

— 昭和17年9月卒業生クラス会 —

開催日: 平成9年10月15～16日

場所: 京都・都ホテル一泊二日

行事: 懇親会, 京大訪問, 鴨川おどり,
京阪奈学研都市見学

参会者: 会員26名, 同伴者2名

(九月会世話人 板橋哲男様から大学にお送りいただいた集合写真の裏書きから)

< p. 10 に この会の記念写真 >

50年会(京機S25年卒クラス会)報告

去る6月18日, 大阪弥生会館において上記会合を開催, 出席は16名(現在会員数31名)でした。

会は12時開会, 約1時間食事を楽しみながら歓談その後約1時間『魚類学の紹介』と題する太田兄の極め

てハイレベルのお話しをお聞きしました。続いて, 森川兄から京機九日会の近況報告があり, その中で現在参加者が先細り傾向にあるので, その対応策を検討中とのことでした。(現在のところ京機九日会では『大阪クラブ』で年に数回午餐会をもつことになっている。)

最後に次回の50年会として同期の物故者が8名おられ(現在は9名), その方々を偲ぶ会を11月19日(木)に奈良大和郡山市の法真寺(清水兄宅)で行うことに決定した。(8月17日 小澤記)

洛悠会(S27卒業生級会)の歩み

我々S27年に機械工学教室を卒業した40名は卒業25周年の頃から5年毎に集まって旧交を暖めて来ていたが, 其の大多数が第一線を退いたH4年の40周年から隔年に縮めて開催している。又此の時に名称を公募して“洛悠会”と定めると共に, 京阪神と東京近辺で, 夫々適宜食事会を開催するほか Golf会や一泊旅行会

などで親交を深めている。残念乍ら逝去された方が5名あり、現在の会員は35名である。本年は11-12, 13に琵琶湖の傍で総会と湖東三山及び永源寺の紅葉狩りを予定している。

また、我々はH5より年会誌“洛悠”を発行している。これは奥島元教授の御示唆によるもので毎年全員に往復葉書で近況を連絡してもらい、それをそのまま複写製本して全員に配付するもので、割方好評である。
小林富美彌

昭和43年卒同窓会

卒業後30周年を記念して昭和43年卒業の同窓会を、平成10年5月30日、京大会館で行いました。37名の参加者があり、近況報告や歓談などで楽しいひとときを過ごしました。そして祇園にて二次会の席を設けました。またそれに先立ち、希望者には新校舎を見学してもらいました。

次回同窓会は来年4月頃、東京にて開催することを予定しています(世話役:熊澤正博氏)。多くの方の参加をお願いします。

幹事:宇野義幸, 橋 邦英, 吉村允孝

< p.10 に この会の記念写真 >

昭和44年卒同窓会

学園紛争の騒乱の中、卒業式も行われないうまま散りちりとなってから30年目の同窓会を、7月18日祇園祭が終わって夏の日差しが照りつける京大会館で行いました。今一番忙しい年代ですから集まれるかどうか危惧されたのですが、東京から、あるいは海外から、返事のあった24人全員が出席、和やかな雰囲気の中で近況報告に耳を傾けたり、過ぎ去った日々を語り合ったりして旧交を暖めました。記録係 並木宏徳

< p.10 に この会の記念写真 >

S 45卒同期会便り

6月13日に京都で同窓会を持ちました。10人ほどの小さな集まりでした。昔懐かしいコンパ屋天寅のです

き焼きでした。4時間ほど思い出話から現在、未来の雑談に花が咲きました。同期会の幹事として、西田光男、各務嘉郎、坂口喜好君が世話をしてくれることになりました。

松久 寛

Tel./Fax. 075-753-5225

E-mail: matsu@prec.kyoto-u.ac.jp

四半世紀ぶりの「同窓会」

過日、昭和49年学部卒有志9人で20数年ぶりにささやかな「同窓会」を行いました。声を掛けたメンバーがいずれも東京、大阪周辺で勤務している関係から名古屋に集まりました。今回の出席者は卒業直前の冬休みに団体のスキーツアーの幹事を勤めたメンバーが中心で、同窓生全員に声を掛けた訳ではありません。しかしある時期、同じ環境を共有した懐かしさが求心力になって、皆好意的に駆けつけてくれました。当日、最初は皆立派な紳士然としており、さん付けで呼んでいましたが、時間が経つにつれ、いつしか俺、お前の関係に戻りました。しかも態度の大きさの序列も以前と同じになりました。お陰でワールドカップ・サッカー、参議院選挙といった慌ただしい世の中の動きの中、日曜日の昼下がりに非常にゆったりとした時間を過ごすことができました。

大阪ガス 関納真一/ 住友重機械 吉田史郎

< p.10 に この会の記念写真 >

機械自主研同窓会便り

6月13日に京都で同窓会を持ちました。佐藤先生、柴田先生も来られ、12人が集まりました。昔と同様の馬鹿話の3時間でした。林博利君は大学生の娘さん、熊谷君は大学生の息子さんをつれて来ました。配偶者はだれもつれてきていませんでした。次はもう少し粋な企画で、家族で楽しめるものになりたいと思います。なお、小沢君の世話でe-mailのネットワークを作ることになりました。皆さんの e-mail address を小沢君に連絡してください。

松久 寛

Tel./Fax. 075-753-5225

E-mail: matsu@prec.kyoto-u.ac.jp

《会員からのお便り》

蒸気機関車模型の来歴

ニュースNo. 2の表紙に教室に残っている全木製蒸気機関車模型の写真を掲載しましたところ、S14の田賀喜一氏から次のお便りをいただきました：

「先般京機会で色々有難く御礼申し上げます。御陰様で我々の時代とは一段と変革した新しい科学の一端を伺いリフレッシュされた思いであります。一方昔々のSLの模型の故事来歴は結局は添付のコピーのものが原形らしいと証言がありましただけで、それ以上のことは不明であります。御役に立てずに残念ですが不敢取御報告迄。早々敬白 田賀喜一」

田賀氏が添付して下さった資料は、毎日新聞社「日

本の蒸気機関車のすべて」からの写真のコピーで、そこには「5300形1882年(明治15)山陽鉄道12号機関車：イギリス製で、シリンダーとランニングボードが傾斜をもっているため、そのスピード感あるスタイルが好まれ、山陽鉄道、日本鉄道で旅客用として活躍した。国有鉄道になってからは東海道線の短区間を走った。積み上げられた石炭の笹や、それを運ぶアジア風の作業帽をかぶった人々に、初期の鉄道の様子がうかがわれる。」と説明されています。

田賀さん、ありがとうございました。

《教室から》

教官の異動

平成10年5月以後の教官の異動は次のとおり：

吉村允孝教授：昭和43年京大機械工学科卒業、同48年京大大学院博士課程精密工学専攻単位修得退学、本年8月1日教授に昇任（大学院工学研究科精密工学専攻システム工学講座知識情報システム分野担任）。

田中和人助手：平成6年京大機械工学科卒業、本年7月京大大学院博士後期課程機械工学専攻退学、8月1日助手に採用（大学院工学研究科機械工学専攻機械材料力学講座機械材料設計学分野勤務）。



吉村允孝教授



田中和人助手

教室の建物の建築進行状況

2年前に完成した吉田構内初の8階建て建物の南側に、それと平行にもう1棟、同じ外観の建物が現在建設中です。地下1階、地上8階、面積約7,300平米。ここ半年くらいで完成し、西半分は今年度中に、東半分は来年夏休み頃移転の予定です。これで、現在の機械系はほとんどすべてこの2棟と、6年前に完成した研究実験棟(工場棟)に入居することになります。そのほか、材料系(旧金属系)の研究室もかなり移転してくる予定です。その後は、これら8階建て建物を南北につないでいる3階建て建物がさらに南に伸び(約1,000平米)、そこには物理系図書室(機械系、材料系、原子核、また将来は航空)と、情報メディアセンターの工学部情報処理演習室(パソコンが合計約200台)が入る予定になっています。ちなみに、この8階建てと3階建ての組み合わせは、京都市の中心部から東山を展望したとき、あまり目障りにならないように、という意図でデザインされた、とされています。



S 17 9月 同窓会の一こま



S 44同窓会の一こま



S 43同窓会の一こま



S 49同窓会の一こま

編集後記

京機会ニュースNos. 1, 2 をご担当の柴田教授の後を受けて、1まわり若い私がニュース担当を仰せつかりました。

京機会ニュースは、京機会という組織の機関誌であると同時に、会員相互の交流の場であると心得ております。会へのご意見・ご提言のみならず、会の仲間の近況・クラス会写真などのご送付も歓迎いたします。

とは言え、現在のところ、まだ会費制の浸透が十分ではなく、ニュース1号あたりの分量・経費の制限が読めずにおります。私が走りすぎて会の会計を困らせることがないように、いましばらくは、なるべく多数の方々から少しずつの記事をお寄せいただければ、もっとうれしく存じます。

'一太郎ver. 3.0'を搭載の愛機 PC-9801VX を手下に、公務員勤務時間の後にボランティアいたします。種々至りませんが、よろしくお願い申し上げます。

牧野俊郎 記

京機会事務局（ニュース担当）

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学大学院工学研究科機械系工学専攻

牧野俊郎 教授, S 47, Tel./Fax. 075-753-5265, E-mail: a50141@sakura.kudpc.kyoto-u.ac.jp

段 智子 (水)と(金), Tel. 075-753-5183, Fax. 075-771-7286, E-mail: dan@mech.kyoto-u.ac.jp